

さい と ぱる
西都原 13号墳

(墳丘出土古墳時代遺物編)

平成13年3月

宮崎県教育委員会

特別史跡 西都原古墳群発掘調査報告書 第2集

さい と ばる
西都原13号墳

(墳丘出土古墳時代遺物編)

平成13年3月

宮崎県教育委員会

序

県教育委員会では、平成7年度から、文化庁の「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」による助成を得て、西都原古墳群の新たな整備を進めています。

平成9年度から11年度にかけて復元整備を行った13号墳については、平成7年度から9年度にかけて発掘調査を行い、整備の基礎ともなる新たな資料や貴重なデータを得ることができました。

本書では、同調査で得られた様々な資料の中から、古墳の時期を決定し、祭式を推定するために重要な手がかりとなる墳丘出土の土器について報告するものです。埋葬施設や墳丘などの構造については、次年度以降に報告する予定です。

この報告書が研究の分野においてはもちろん、学校教育や生涯学習の場においても活用され、遺跡や文化財に関する理解を広める一助となることを期待いたします。

おわりに、本事業を進めるにあたり、御理解・御協力を賜った地元住民の方々をはじめ、指導委員会の先生方や各関係の皆様に対し、衷心よりお礼申し上げます。

平成13年3月

宮崎県教育委員会

教育長 笹山竹義

例　　言

1. 本書は、文化庁の「地方拠点史跡総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」による助成を得て、平成7年度から9年度にかけて発掘調査を実施した西都原13号墳の報告書である。本来、遺構編を先に報告すべきであるが、諸般の事情により遺物のみを「墳丘出土古墳時代遺物編」として刊行する。13号墳の発掘調査では、古墳時代以外に古代、中世の遺構・遺物も検出されているが、それらは次に刊行予定の「本編」に掲載する。また、古墳時代の遺物の内、主体部に関わるものも「本編」に掲載予定である。
2. 出土土器の実測図は第11図と第12図に掲載しているが、本文中実測図掲載の土器に言及する場合、例えば「土器第12図の13」と表記せず「土器12-13」あるいは「12-13」と表記している。
3. 発掘調査は県教育委員会文化課が行った。整理作業については埋蔵文化財センターにおいて実施した。
4. 本書の執筆・編集は石川悦雄が行ったが、発掘調査をはじめ遺物整理、実測など多くの方々の協力に支えられている。
5. 発掘調査によって出土した遺物や調査時に作成した記録類は宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第1章 調査の概要	1
第2章 墳丘出土の古墳時代遺物	1
1 遺物の出土状況	1
2 遺 物	4
3 まとめ	8

挿図目次

第1図 西都原古墳群分布図 (1/20,000)	2
第2図 13号墳平面図・調査区及び土器出土位置 (1/400)	3
第3図 前方部前面二段目テラス土器 (第11図1) 出土状況 (1/20)	4
第4図 前方部前面基底部土器 (第12図1) 出土状況 (1/20)	4
第5図 前方部T2墳頂平坦面肩部土器 (第11図12) 出土状況 (1/20)	5
第6図 くびれ部墳頂平坦面土器 (第12図22) 出土状況 (1/20)	6~7
第7図 くびれ部墳頂平坦面土器 (第11図3) 出土状況 (1/20)	8
第8図 後円部墳頂平坦面A・H群土器出土状況 (1/100)	9
第9図 後円部墳頂平坦面A群土器 (第11図16) 出土状況 (1/20)	9
第10図 後円部墳頂平坦面H群土器 (第11図16, 第12図23~27) 出土状況 (1/20)	9
第11図 出土土器① (1/4)	10
第12図 出土土器② (1/4)	11

表目次

第1表 13号墳丘出土土器観察表	12~13
------------------------	-------

図版目次

図版 1 ①くびれ部土器 (第12図22) 出土状況 (前方部から)	14
図版 1 ②くびれ部土器 (第12図22) 出土状況 (後円部から)	14
図版 2 ①くびれ部土器 (第12図22) 出土状況	15
図版 2 ②くびれ部土器 (第12図22) 出土状況 (崩落物除去後)	15
図版 3 ①前方部前面二段目テラス土器 (第11図1) 出土状況	16
図版 3 ②前方部T2墳頂平坦面肩部土器 (第11図12) 出土状況	16
図版 4 ①くびれ部土器 (第11図3) 出土状況	17
図版 4 ②後円部墳頂A群土器 (第11図16) 出土状況	17
図版 5 13号墳出土土器	18

第1章 13号墳の概要

西都原13号墳は台地上位面の南端、西都原古墳群の通称第1古墳群に所在する前方後円墳である（第1図）。周溝、墳丘及び主体部の復元整備を目的として平成7年度に範囲確認調査、平成8、9年度に主体部及び墳丘等の構造確認調査を実施し復元データを得た。

13号墳はほぼ南北に主軸を持ち、全長は79.4m、主軸直交部分の後円部径43.2m、くびれ部基底からの前方部長38.6m、くびれ部基底幅18.4m、前方部前面幅25mの規模を持つ。墳丘は前方部、後円部とも三段集成で、1m内外の幅を持つテラスは一段目、二段目とも不整合無く全周する。墳丘斜面には拳大から掌大の川原石を用いた葺石が葺かれ、テラスには葺石より小振りの円礫が敷かれていた（第2図）。埋葬主体は疊で覆われた粘土櫛で、主軸からは45°北西に振った方向に構築されている。粘土櫛の棺床は小円礫が平らに敷かれているが、棺側に充填されたとみられる粘土や疊の状態から割竹形木棺が置かれていたと判断された。木棺の規模は不明だが、粘土櫛の棺床は内法で長さ約6.8m、幅50cmである。墳丘の西側には不整形の周溝が掘られていた。

第2章 墳丘出土の古墳時代遺物

1 遺物の出土状況（第2図～第10図）

13号墳に伴う遺物には、副葬品と碧玉製の紡錘車を除けば、土師器の壺、高壺がある。周溝はほぼ完掘に近いが墳丘については調査を実施した面積が墳丘全体の約五分の一という事情もあり、墳丘及び周溝から検出できた土器はそれほど多くはない。整備工事時の表土梳きとりにより発見されたものも多いが、この種の土器片は採集のレベルに留まり、出土位置もおよその地点を押さえただけである。

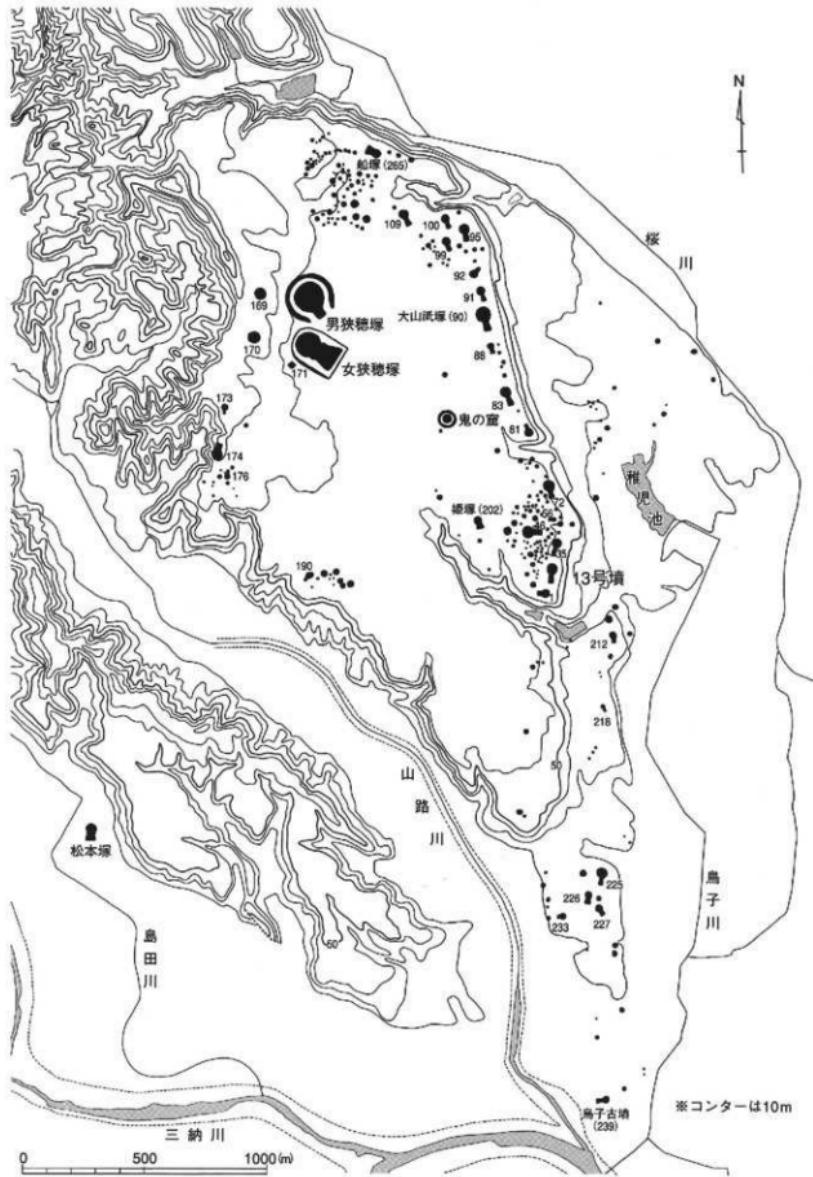
出土土器片の殆どは比較的小さな破片で、斜面やテラスの流土中に崩落葺石と混在した状態で検出されたものが多い。確実に原位置を留めるものは、わずかにくびれ部墳頂スロープ端で検出された底部穿孔の壺下半部のみであった（第6図、第12図22）。墳頂平坦部以外のテラスなどに土器が置かれていた状況は積極的には認めがたい。圓化し得た土器に限れば、穿孔された底部は後円部墳頂平坦面に多く、二重口縁壺の口縁部は前方部に多く検出されたという傾向が見られるものの、高壺、二重口縁壺、単口縁壺、底部穿孔、非穿孔など器種や属性の違いによって置かれる部位が異なる状況は顕著ではなかった。

土器の接合は、基本的には近接したもの、若しくは墳頂から基底部に至る崩落軌跡上の一群が接合する状況が認められるが（表1-1, 4, 18, 34, 37～39）、12-14の壺形土器底部のように前方部中程と前面という風にかなり離れた地点で接合する例もある（表1-2, 24）。

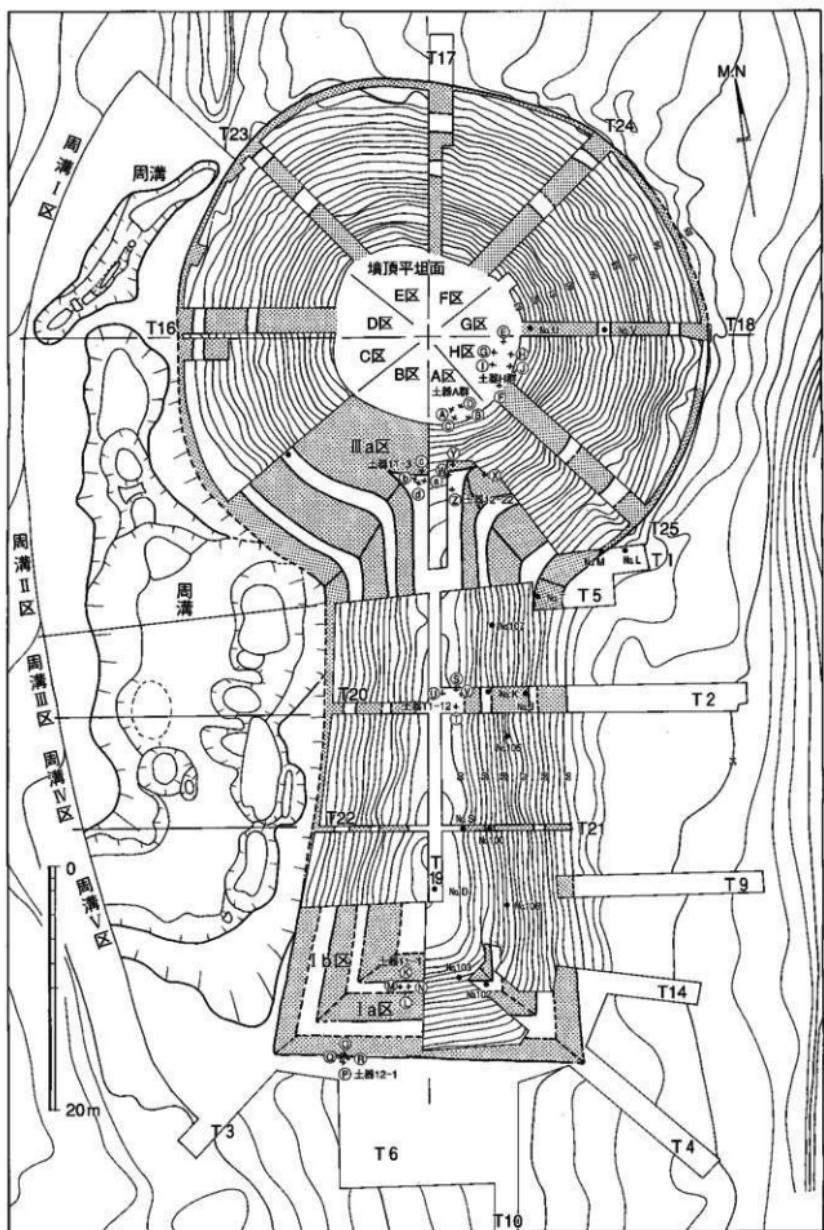
土器12-1は前方部前面Ia区の基底部根石付近の黒褐色流土中から出土した。基底面から約25cmほど浮いた状態で検出し、前面東側三段目斜面流土中から検出した破片と接合することから、元々は前方部前面墳頂に置かれていたと判断される（第4図）。

土器11-1は同じくIa区二段目テラスの敷石上もしくは転石中で検出した。テラスそのものは肩部が流れで水平を保っておらず、接合できる破片もテラスより下位の位置から出土したので、土器が原位置を保っているか否かの確認が得られなかった（第3図）。

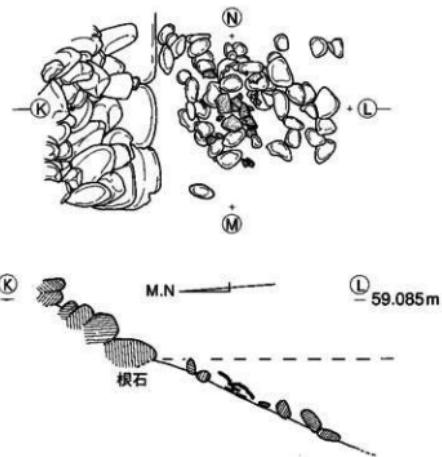
土器11-3は前方部が後円部へ接続するスロープ根石前から出土した。底部は墳丘に密着しているが、



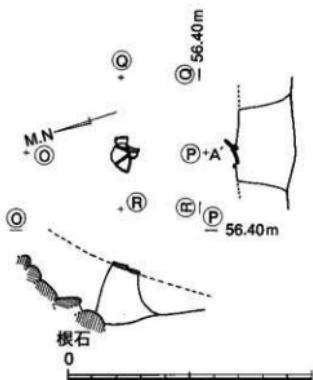
第1図 西都原古墳群分布図 (1/20,000)



第2図 13号墳平面図・調査区及び土器出位置 (1/400)



第3図 前方部前面二段目テラス土器
(第11図-1) 出土状況 (1/20)



第4図 前方部前面基底部土器
(第12図-1) 出土状況 (1/20)

況のため、墳頂平坦面端部に壺形土器が数メートル間隔で置かれていた状況は、ある程度推察できるものの、配置の具体像は提示できない。

2 遺物 (第11図、第12図、表1)

図化した土器の数は56点にとどまる。(同一個体の可能性のある土器5点がふくまれるので総数51

胴部片は黒褐色流土中にある。土器12-22と対になる位置に存在するが、設置のための掘り込みは認められなかった(第7図)。後円部墳頂から転落した可能性も捨てきれない。

土器11-12は前方部トレンチT2の墳頂肩部敷石中から検出された。底部は正立しており、原位置を保っている可能性はあるが、肩部が沈下しており、掘り込み等も確認できなかったので確証は得られなかつた(第5図)。土器12-22は前方部と後円部が接続するくびれ部のスロープ東側根石際で検出した。この部分は葺石、敷石をはじめ墳丘構造の保存が良好で、土器設置の掘り込みも明確な形で遺存していた。掘り込みの表面には小振りの円碟が幾つか配置されていて、土器の安定を図った様子が伺えた。又、そのことは、土器の配置が敷石を敷いた後に行われた可能性を示唆している。この土器は胴部中位の破片や内部に有る崩落葺石の状態から、配置後内部に土が充满する程度の時間大きく破壊されることなく立っていたとみられ、最後に胴上半部以上の部位がおそらく葺石や流土に押されて流下したものと考えられる(第6図)。しかし、その破片は検出することができなかつた。

後円部墳頂平坦面ではA区とH区で比較的集中して壺形土器の底部片が出土した(第8~10図)が、それら(11-16, 12-23, 24, 26, 27)は、中世の土器片と混在するなど表土下擾乱層と判断される検出状

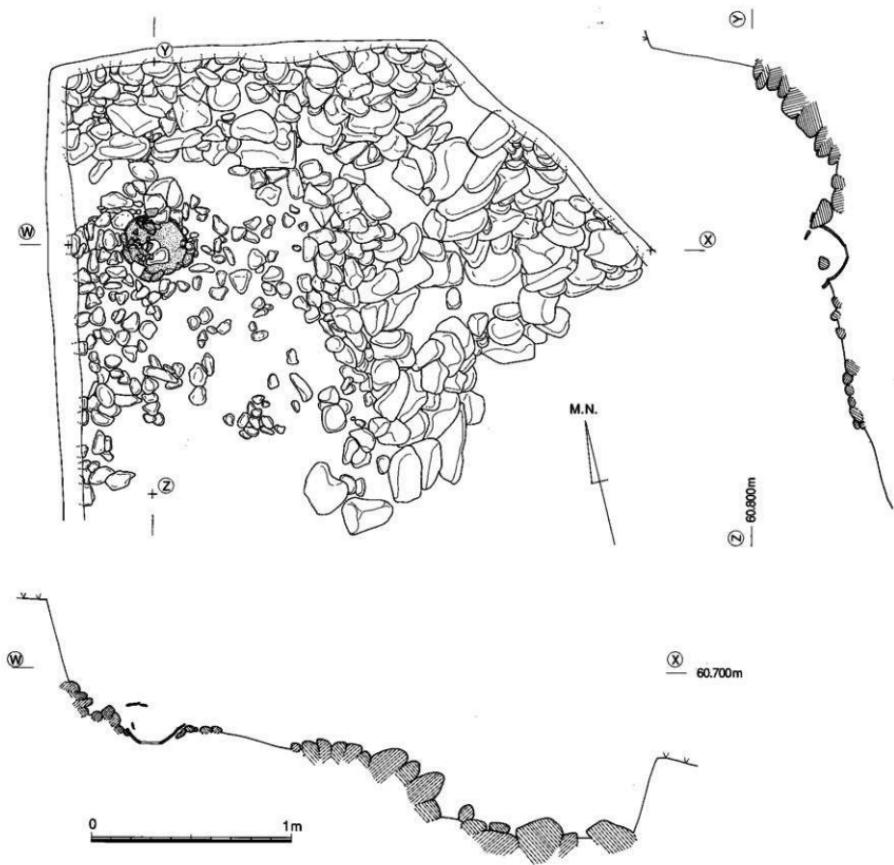


第5図 前方部T2墓頂平坦面肩部土器(図11-12)出土状況(1/20)

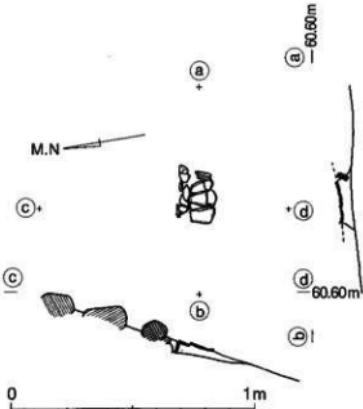
点程度と考えられる。) 出土した土器の大部分は壺形土器である。高坏は6点だけ図化できた。

壺形土器 (第11図1~19, 第12図1~31)

壺形土器には單口縁壺と二重口縁壺がある。二重口縁壺には全体形がわかるものが無いが、12-1~13は口縁部で、口縁が長く外反するもの(12-3, 10など)や短いもの(12-1, 7)などバリエーションが豊富である。小破片から反転復元のために、口径や傾きにやや不安が残る。12-1は最も全体形の明瞭な壺で、ややエンタシス状の頸や短く水平に伸びた受け部と短く外反した口縁部が特徴的である。2は小破片で、おそらく直立する分厚い口縁部をもつ壺と推定される。單口縁壺には全体形のわかるもの(11-1~3)がある。11-2は丸底で短く外反する口縁を持つ。胴部外面は叩きのあとナデ消しがされている。これらの土器から見る限り、單口縁壺の底部は穿孔されていない。また、底部



第6図 くびれ部墳頂平坦面土器（第12図-22）出土状況（1／20）



第7図 くびれ部墳頂平坦面土器（第11図-3）
出土状況（1/20）

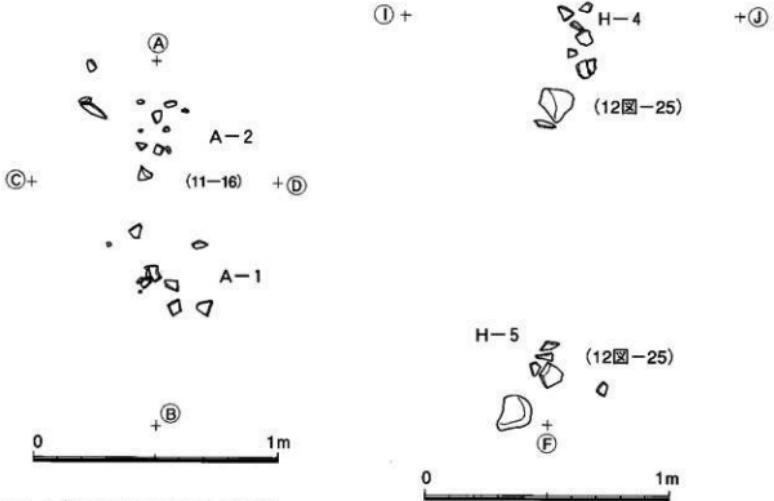
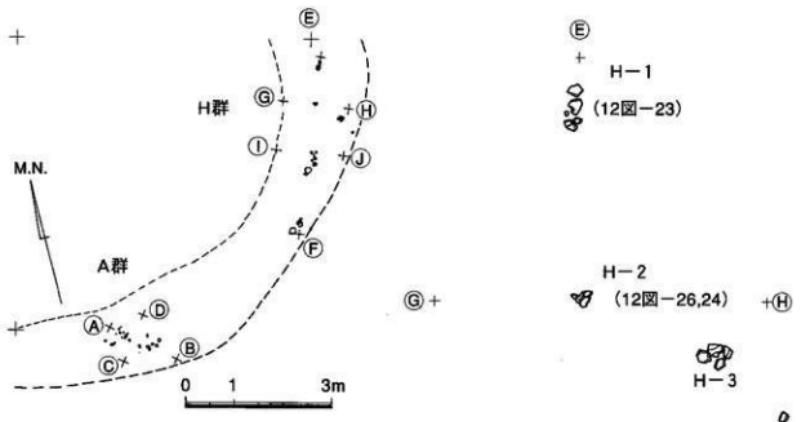
3 まとめ

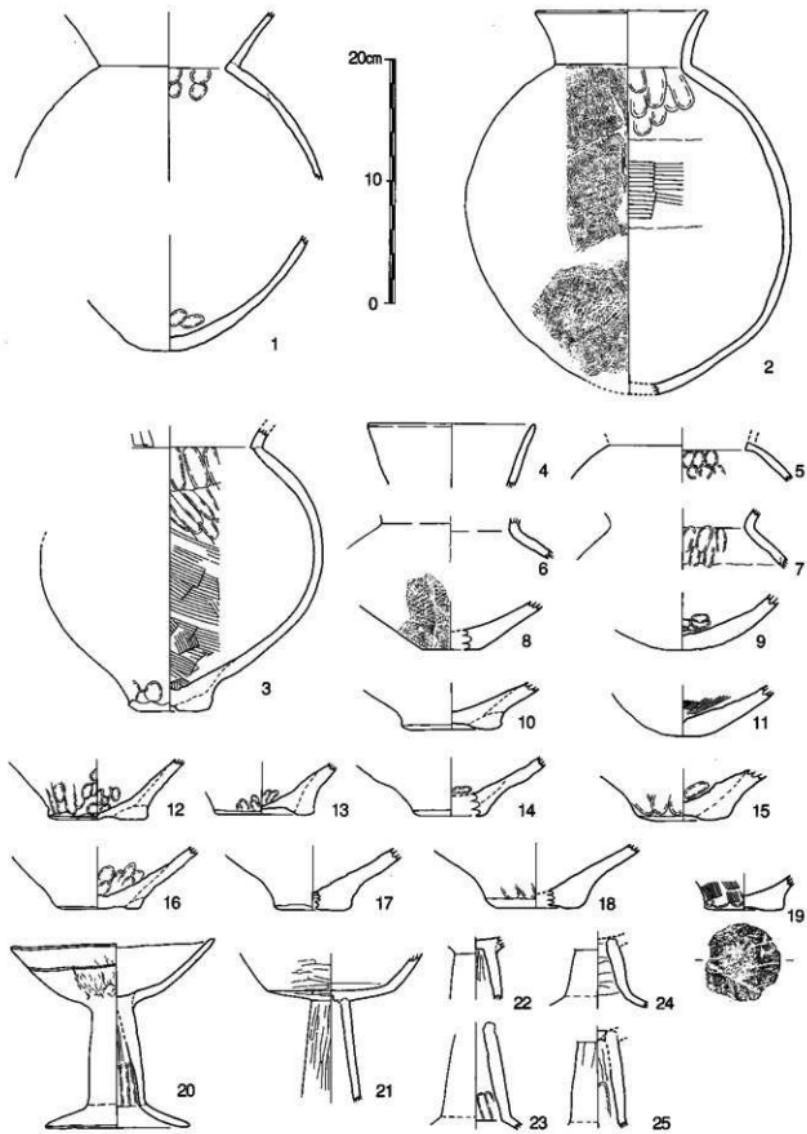
壺形土器の器面調整は基本的に内面が刷毛目及び指頭痕を残すナデ、オサエであり、外面が胴部から口縁にかけてがナデ、底部付近が指頭ナデである。一部の壺胴部には叩き痕が残るので、薄手の器壁を持つ壺は1次調整として叩きが施された可能性がある。壺底部片は、大まかには4形態に区分できる。1類は丸底もしくは殆ど丸底に近い平底（11-1, 2, 8, 9, 11）、2類は底部充填の上げ底状平底（11-3, 10, 12~15）、3類は2類の成形で底部を完全に充填せずに孔を作り出すもの（12-14~21, 23~31）、4類は丸底に穿孔を施すもの（12-22）である。これらのうち、非穿孔の1類と2類は11-1, 2, 3のように単口縁壺の底部と考えられる。3類及び4類は二重口縁壺の底部になる可能性が高い。2類と3類の底部形成手法は、基本的には同一と考えられる。どちらも粘土紐を積み上げて底部を形成した後粘土を充填し、底面を形成する手法であるが、2類は完全に充填するのに対し、3類は底面の中心を充填せずに孔として残すところに違いがある。墳墓における祭式のなかでの土器のありかたの変遷を単純化して考えれば、まず最初に破碎があり、次に底部の焼成後穿孔、焼成前穿孔と変遷し、最後に最初から底部を作らないということになるかと考えられる。それぞれの段階で墳墓祭式への関わり方も変化していると思われるが、実際の行為から行為の仮託、シンボル化がそこに反映していると考えてもよいだろう。完全なものを壊すという行為あるいは、そのことへのこだわりが残る底部穿孔という行為からの脱却として、3類の成立を考えたいが、同時にこの段階から壺形埴輪とよぶべきではないかと考える。壺形土器、壺形埴輪という呼称の問題は、墳墓祭式のありかた全体から考えなければならない問題だが、今回は素朴な問題提起にとどめたい。土器の時期比定も11-20の高坏脚のメリハリの欠如や12-22の壺に見られる長胴化、12-2の直立する分厚い二重口縁の存在、12-1のエンタシスを呈する頸などの新しい様相などから、前方後円墳集成の三期末から四期前半の枠内で考えておきたい。

から胴下半にかけての傾斜も、特に内面で緩やかである。

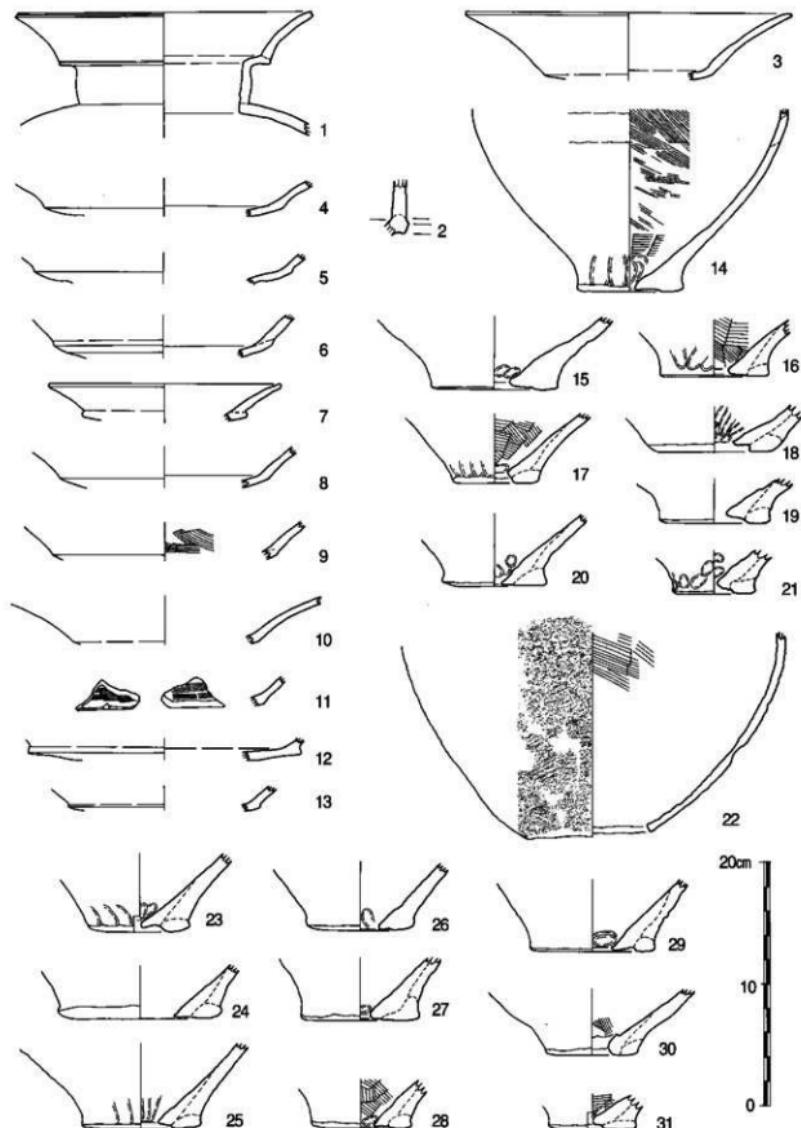
高 壕（第11図20~25）

高坏には短脚のもの（11-24）と長脚のもの（11-20, 21, 23, 25）がある。接合である11-21を除いて脚部と坏部の結合は差込で形成されている。11-20は全体形のわかる唯一の高坏で、脚内面上半部を除いて赤色顔料が塗布されている。受け部と口縁部の境が不明瞭で、口縁下には1条の沈線が施されている。脚据もまたメリハリ無く外反する。





第11図 出土土器① (1/4)

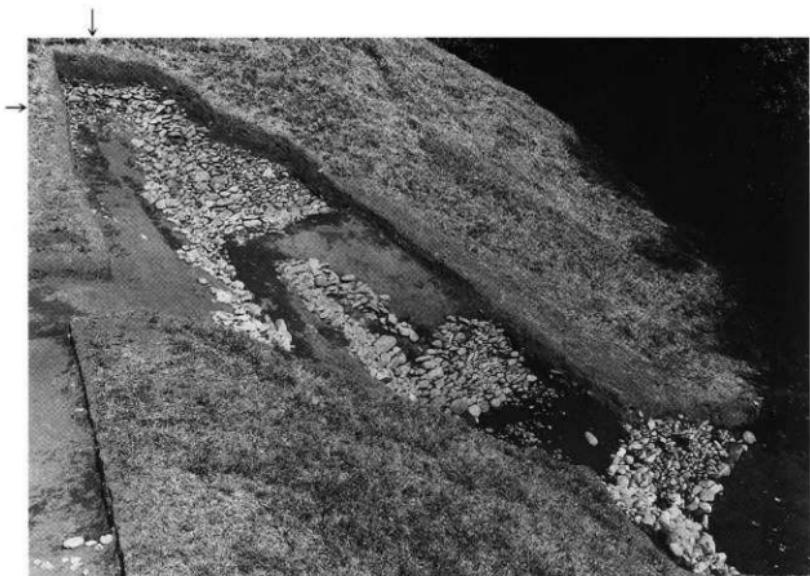


第12図 出土土器② (1/4)

第1表 13号墳出土器観察表

序号	系物番	番号	材種	部位	遺石後	新空	地	土	量	地	土	外	内	面	面	外	内	面	面
1	9	12-1	2.直筒形 底盤1/2 高さ1/2	前方部 口縁部 内縫部	前	前	前	前	1/a	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
2	7	12-4	3.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
3	42	11-3	4.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
4	51	11-1	5.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
5	11	11-5	6.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
6	22	12-2	7.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
7	32	11-6	8.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
8	29	12-16	9.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
9	32	11-9	10.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
10	54	12-7	11.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
11	70	12-5	12.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
12	21	12-4	13.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
13	17	12-6	14.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
14	34	11-12	15.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
15	57	12-5	16.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
16	33	11-8	17.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
17	14	12-3	18.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	10/10	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
18	36	12-20	19.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	3/4	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
19	49	12-18	20.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/1	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
20	37	11-10	21.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/4	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
21	4	11-3	22.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/6	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
22	8	12-22	23.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/6	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
23	48	12-19	24.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/4	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
24	3	11-2	25.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/6	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
25	18	12-8	26.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/6	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
26	15	12-7	27.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/6	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
27	13	11-4	28.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/8	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
28	23	12-9	29.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/8	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
29	34	12-11	30.直筒形 底盤 内縫部	前	前	前	前	1/8	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前

地名	高さ	地盤	部位	浸水度	地盤	地区	位置	地盤	浸水度	地盤	土	内也	外輪	地盤	浸水	地盤	内也	外輪	地盤	浸水
30 25 12.10 塵形土場	砂	砂	砂	1/9	（外輪）	中	2段目アラス	石中	2段目アラス	砂	4mm以下の砂を含む	浅黄	浅黄	良好	良好	ナデ	23.24と同	細胞小?	ナデ	
31 50 12.21 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/7	（外輪）	中	2段目アラス	石中	2段目アラス	砂	2mm以下の砂を含む	浅黄	浅黄	良好	良好	ナデ	引けの青や緑色	くぼみや凹面	ナデ	
32 16 12.12 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/10	（外輪）	中	高周波	砂	3mm以下の砂を含む	砂	3mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	黒褐色	底質	ナデ	
33 45 11.15 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/3	高干部	高干部	高周波	砂	3mm以下の砂を含む	砂	3mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	引けの青や緑色	底質	ナデ	
34 41 11.16 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/12	高干部	高干部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
35 16 12.13 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/3	高干部	高干部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
36 38 12.24 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/3	高干部	高干部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
37 35 12.27 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/3	高干部	高干部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
38 32 12.23 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/3	高干部	高干部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
39 44 12.25 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/6	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
40 53 12.25 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/5	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
41 58 12.30 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/5	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
42 55 12.26 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/5	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
43 47 11.13 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/4	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
44 43 11.18 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/2	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
45 59 12.21 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/2	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
46 36 11.17 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/3	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
47 45 12.29 四方池	泥炭	泥炭	泥炭	1/4	後円部	後円部	高周波	砂	4mm以下の砂を含む	砂	4mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
48 31 11.11 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	10/10	不明	不明	不明	砂	5mm以下の砂を含む	砂	5mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
49 40 11.19 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	10/10	不明	不明	不明	砂	6mm以下の砂を含む	砂	6mm以下の砂を含む	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
50 10 11.7 塘形土場	泥炭	泥炭	泥炭	1/5	周辺	周辺	周辺	砂	3mm以下の砂を含む	砂	3mm以下の砂を含む	浅白	浅白	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
51 29 11.22 高 坪	泥炭	泥炭	泥炭	1/2	前方	前方	周辺	砂	2段目アラス	砂	2段目アラス	浅	浅	良好	良好	ナデ	浅黄	底質	ナデ	
52 30 11.23 高 坪	泥炭	泥炭	泥炭	1/2	（外輪）	（外輪）	（外輪）	砂	1.5mm以下の砂を含む	砂	1.5mm以下の砂を含む	明黄	明黄	良好	良好	ナデ	丁寧な手	丁寧な手	ナデ	
53 26 11.21 高 坪	泥炭	泥炭	泥炭	1/1	（外輪）	（外輪）	（外輪）	砂	1.5mm以下の砂を含む	砂	1.5mm以下の砂を含む	明黄	明黄	良好	良好	ナデ	C.4,C.5,C.8と同	側面か?	ナデ	
54 6 11.30 高 坪	泥炭	泥炭	泥炭	1/5	（外輪）	（外輪）	（外輪）	砂	2mm以下の砂を含む	砂	2mm以下の砂を含む	明黄	明黄	良好	良好	ナデ	外側全斜面	内側は斜面中位斜面	ナデ	
55 28 11.24 高 坪	泥炭	泥炭	泥炭	1/2	周辺	周辺	周辺	砂	3mm以下の砂を含む	砂	3mm以下の砂を含む	浅黄	浅黄	良好	良好	ナデ	丁寧な手	丁寧な手	ナデ	
56 27 11.25 高 坪	泥炭	泥炭	泥炭	不詳				砂	2mm以下の砂を含む	砂	2mm以下の砂を含む	浅黄	浅黄	良好	良好	ナデ	丁寧な手	丁寧な手	ナデ	



①くびれ部土器（第12図22）出土状況（前方部から）



②くびれ部土器（第12図22）出土状況（後円部から）↑



①くびれ部土器（第12図22）出土状況



②くびれ部土器（第12図22）出土状況（崩落物除去後）



①前方部前面ニ段目テラス土器（第11図1）



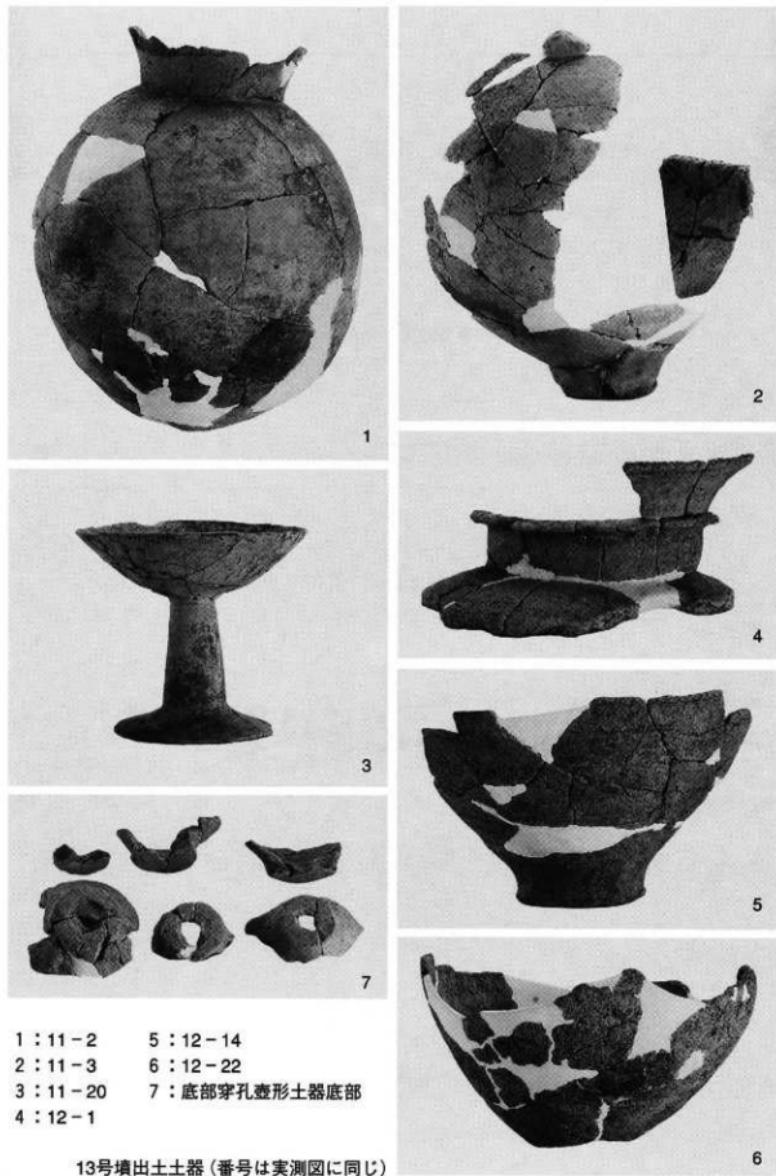
②前方部T2墳頂平坦面肩部土器（第11図12）出土状況



①くびれ部土器（第11図3）出土状況



②後円部埴頂A群土器（第11図16）出土状況



1 : 11-2 5 : 12-14
 2 : 11-3 6 : 12-22
 3 : 11-20 7 : 底部穿孔壺形土器底部
 4 : 12-1

13号墳出土土器 (番号は実測図に同じ)

報告書抄録

ふりがな	さいとばる じゅうさんごう ふん							
書名	西都原13号墳							
副書名	(墳丘出土古墳時代遺物編)							
卷次								
シリーズ名	特別史跡西都原古墳群発掘調査報告書							
シリーズ番号	第2集							
編集者名	石川悦雄							
編集機関	宮崎県教育委員会							
所在地	〒880-0805 宮崎市橘通東1-9-10 TEL 0985-26-7251							
発行年月日	2001年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'"	東經 °'"	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
さいとばるじゅうさんごうふん 西都原13号墳	さいとし おおあざ みやけ 西都市大字 三宅	45208		32° 06' 30"	131° 23' 49"	H7 ～ H9	25,000	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
西都原13号墳	古墳 (前方後円墳)	古墳時代前期	墳丘 葺石	2重口縁 壺形土器 單口縁壺 高坏				

特別史跡 西都原古墳群発掘調査報告書 第2集

西都原13号墳

(墳丘出土古墳時代遺物編)

平成13年3月31日

編集発行 宮崎県教育委員会
〒880-0805 宮崎市樋内東1丁目9番10号
TEL 0985-26-7251

印 刷 田中印刷有限会社
〒880-0022 宮崎市大橋3丁目110番地
TEL 0985-28-4724 FAX 0985-20-9285
